

経営概要書

法人名：

十和田ホテル 株式会社

(株4)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 猿田 強	資本金	250,000千円	所管部課名
設立年月日	平成9年12月5日	県出資額及び比率	100,000千円 (40.0%)	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。			
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務			
関連法令、県計画	なし			

2 令和3年度事業実績

当期は、秋田県外において緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が各地で再発されたこともあり、募集団体のキャンセルや県外個人客の利用低迷が継続していたことから、秋田県民利用促進のための支援事業を活用し、県内個人客の誘客を推進した。
 以上の結果、宿泊人員は8,063名、売上高は175,715千円となった。営業費用については不要不急等の経費削減を図ったが原油高騰による水道光熱費が大幅に増加したこと等により営業費総体で188,015千円となった。営業損失は12,300千円、経常損失は8,070千円となり、当期純利益では、従業員社宅を取得したことによる評価額を特別利益に計上した結果、365千円の黒字となった。

<事業目標・実績>

項目	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上高(千円)	目標	261,000	235,000	220,000
	実績	129,394	175,715	—
個人客宿泊人数(人)	目標	13,200	11,300	10,300
	実績	6,382	8,063	—
顧客満足度指数	目標	90	90	90
	実績	93	93	—

3 組織

①役員数(R4.7.1現在)

(単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	R3	R4	R3	R4	
常勤	1	1			支給対象者 (R3年度) 2人
内、県退職者					
内、県職員					
非常勤	7	6	1	1	平均年齢 63歳
内、県退職者					平均報酬年額 (R3年度) 5,700千円
内、県職員	1	1			
計	8	7	1	1	
内、県関係者	1	1			

②職員数(R4.4.1現在)

(単位:人)

区分	R3	R4	正職員
	正職員	4	
内、県退職者			平均勤続年数 17.0年
出向職員			平均年収 (R3年度) 3,760千円
内、県職員			
臨時・嘱託	6	9	
内、県退職者			
計	10	11	
内、県関係者			

③取締役会回数

令和2年度	令和3年度
4回	4回

4 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度
売上高	129,394	175,715
売上原価	141,438	160,436
売上総利益	△ 12,044	15,279
販売費及び一般管理費	23,459	27,579
人件費(売上原価含む)	69,476	71,227
営業利益(損失)	△ 35,503	△ 12,300
営業外収益	15,737	4,261
営業外費用	2	31
経常利益(損失)	△ 19,768	△ 8,070
特別利益		9,216
特別損失		
法人税、住民税・事業税	300	781
当期純利益(損失)	△ 20,068	365

②貸借対照表

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度
流動資産	124,596	119,946
固定資産	12,874	23,191
資産計	137,470	143,137
流動負債	7,956	12,057
短期借入金		
固定負債	42,400	43,600
長期借入金	40,000	40,000
負債計	50,356	55,657
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 162,886	△ 162,521
純資産計	87,114	87,479
負債・純資産計	137,470	143,136

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>

項目	令和2年度	令和3年度	増減※
経常収支比率(経常収益÷経常費用)	88.0%	95.7%	+7.7
流動比率(流動資産÷流動負債)	1566.1%	994.8%	△571.2
自己資本比率(純資産計÷負債・純資産計)	63.4%	61.1%	△2.3
有利子負債比率(有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
8,000	3,600	45.0%

※中小企業退職共済制度へ加入している。

5 県の財政的関与の状況

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出		1,817	R3宿泊施設感染防止対策物品購入等支援事業費補助金
補助金			
委託費			
指定管理料			

◎法人の行動計画(平成30年度～令和3年度)

県関与のあり方「縮小・廃止」「見直しの方向性」県保有株式の処分を目指し、当面は累積赤字の解消に取り組む。

課題	累積赤字の10%の削減を図る。
取組	継続的に黒字経営を達成すべく、人材の確保を図るとともに、国内外からのお客様に、料理・サービス・施設のより高い品質を提供することで、顧客満足度の向上を図り、更なる売上拡大と生産性向上を推進していく。 【平成30～令和3年度】 当期純利益(累積赤字削減額) 各年度 3,500千円
実績	[当期純利益(累積赤字削減額)] 平成30年度: ▲1,895千円 令和元年度: 3,487千円 令和2年度: ▲20,068千円 令和3年度: 365千円

I 自己評価

1 公共的役割	A	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	C
観光客、宿泊客に十和田湖の魅力を伝え十和田湖周辺の活性化に寄与している。国登録有形文化財及び近代化産業遺産を有し、その維持管理に努めている。秋田県民限定プランを積極的に販売し秋田県民の集客に努めている。		取締役会は法定回数の4回を開催している。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。常勤役員はプロパー職員である。		自社ホームページをリニューアルし、ベストレートで販売したことにより、昨年より大幅に予約数が増加した。		従業員社宅取得評価額による特別利益9,216千円を計上した結果、当期純利益は365千円の黒字となった。しかし、経常利益は赤字であり、累積損益も赤字である。	

II 所管課評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
県関与の縮小に位置づけられている法人であるが、十和田湖周辺地区の活性化に寄与し、また国登録有形文化財である建物の適正な維持管理を行うなど、一定の公共的役割を担っている。		取締役会は法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり組織体制は整っている。充て職の役員も取締役会に出席している。		宿泊人数及び売上高は、令和2年度よりは回復したものの、コロナ禍の長期化による影響で目標を大きく下回る結果となった。しかし、顧客満足度指数は高水準を維持し目標を上回っている。		特別利益により当期純利益は黒字となったものの、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、単年度経常損益は赤字となった。	

III 外部専門家のコメント

<p>新型コロナウイルス感染症の影響が続き、前年より赤字幅は減少しているが2期連続の営業赤字、経常赤字となった。社宅の評価益により当期純利益になったが、依然として厳しい状況である。財政状態は、前期に経営安定資金を調達しており、当面の資金繰りは心配ないと考えられるが、累積損失解消に向け、今後も更なる対応策を継続して実施することが必要である。</p>
--

IV 委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
三セクの行動計画は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、歴史的・文化的価値の高い施設の管理や周辺地域の活性化など、一定の公共的役割を担っている。		常勤の役員がおり、組織体制は整っている。		顧客満足度指数は高水準を維持しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊人数及び売上高は目標を下回る結果となり、いずれも目標値の8割に到達しなかった。		新型コロナウイルス感染症の影響により、経常利益は赤字となった。当期純利益については、従業員社宅取得評価額による特別利益により黒字となったが、依然として多額の繰越損失金があり、コロナ禍にあっても繰越損失金を解消すべく、更なる対応策を実施していく必要がある。	

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
<p>評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた対応（概要）</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の経営状況の苦しい中、所属する部署にとらわれず、職員間同士で互いにサポートすることで人件費の削減に努めたほか、コロナ禍における県内個人客の利用増に努め、営業面における売上増を図った。</p>							